

Basic Information / 基本情報

Duration / 開催期間

説明：～年～月 から ～年～月まで

2012 年 11 月から 2013 年 10 月まで

Staff / スタッフ

説明：青年会議所メンバーの参加人数

例：何人 ○○member

19 人

Sponsors / 支援者

説明：青年会議所以外のメンバーがいる場合のみ記載してください

例：○○市ボランティア団体等

(後援)  
鹿児島市  
鹿児島市教育委員会

Budget 予算

説明：ドルで表示してください。

例：1 万円なら one hundred dollar

\$13,000

Profit / Loss 利益／損失

説明：基金を集めること以外は、0にしてください

0

In Which UN MDG best fit (if Apply)? UN MDGs の該当項目 (もしあれば)

説明：

NONE

## Who is benefited? 誰の為に？

説明：活動エリアに住み暮らす人々 人

鹿児島市に住み暮らす小学生 4 年生から 6 年生 17300 人、およびその保護者 10000 人（推定）

## Objective 目的

説明：(例 1) 子ども対象の事業をベースにして、参加者とメンバーの意識を変革を促し、前向きな変化を創り出すため

- 1.JCI 鹿児島は我々の住み暮らす全ての鹿児島市民が**他人を思いやる心、生命や人権を尊重する心をもった人**に POSITIVE CHANGE するため。
- 2.そのために、参加者は、「ひと」と「ひと」とのつながりを再認識し、思いやりや共助の精神を身に着けるように POSITIVE CHANGE する
- 3.メンバーは、**地域の子ども達は地域で育てるという意識を持つように POSITIVE CHANGE する**

## Overview 概要

説明：必ず結果と合致しているはず

事業テーマ **他人を思いやる心、生命や人権を尊重する心の醸成**

- ・鹿児島市内 81 の小学校にチラシを配布し、募集をかけた
- ・参加児童は応募のあった小学 4 年生から 6 年生の 32 人が全 4 講座受講
- ・各参加児童の保護者は第 1 講座、第 3 講座、第 4 講座を受講
- ・すべて同じ児童が参加
- ・参加児童が学んだことを友達や家族に伝えることで全市民へ運動が広がる

### 第 1 講座

- ・メンバーが講師となり子どもとその保護者を対象に、DVD（徳育プログラム）を使用して、感謝することの大切さを学んでもらう

### 第 2 講座

- ・子ども達は 2 泊 3 日のキャンプ生活を通して、日頃の便利な生活や、親のありがたさを再認識する

### 第 3 講座

- ・子ども達と保護者は、身の回りにある人と人とのつながりを図示することで、多く

の人の支えの中で普段生活ができていることを学ぶ

- ・子ども達と保護者は、家系図を書くことにより、先祖からつながる命の尊さを学ぶ

#### 第4講座

- ・子ども達と保護者は、事業を振り返ることにより、他人への思いやりや共助の大切さを学ぶ

### Result 結果

説明：複数の短い文章になるように注意してください

目的がどのくらい達成できたか書いてください

上記の結果の想定外の結果を書いてください

上記の結果の確認方法を書いてください

検証結果を簡潔に書いてください

- ・参加した青少年は、つながりを知ることで他人を思いやる心、生命や人権を尊重する心を学んだ

#### アンケートより

- ・参加した青少年の95%がつながりについて気づきがあったと答えた
- ・参加した青少年の100%が思いやりや助け合いの大切さを学んだ
- ・参加したメンバーの90%が、地域の子ども達は地域で育てるという意識をもった

アンケート結果から、児童は普段の何気ない生活にも様々なつながりがあり、助け合いの中で生かされているという事を知り、共助の大切さを知るきっかけづくりになったと感じます。

#### 保護者のアンケートより

- ・進んで家事の手伝いをしてくれるようになった
- ・食べ物を残さなくなった
- ・「ありがとう」と言えるようになった

### Actions Taken 行動

説明：

2012年11月から2013年7月まで17回委員会を実施した。

#### 上程スケジュール

2013年4月02日 04月度正副会議  
2013年4月09日 04月度理事会 協議上程  
2013年5月07日 05月度正副会議  
2013年5月14日 05月度理事会 協議上程  
2013年6月04日 06月度正副会議  
2013年6月11日 06月度理事会 審議上程

2013年7月17日 まちづくり事業推進支援会議（JCI 鹿児島内部組織）

- ・事業の意義目的を説明する事で参加推進を図った
- ・JCメンバーの児童に対する姿勢の周知

2013年7月27日 第1講座 鹿児島市内研修室

日本JCの徳育プログラム「学の夏休み」を活用し感謝することの大切さを学ぶ  
（学の夏休み＝自分勝手にわがままな学少年が、夏休みの体験を通して思いやりや命の大切さを知り感謝することの大切さを学ぶ）

2013年8月2日 第2講座 1日目（鹿児島県伊佐市キャンプ場）

- 箸・食器作り、テント張り、自炊、
- ・普段何気なく使っているものを一から作ることで物がある便利な生活を再認識した
  - ・食事を作る大変さを知ることで親のありがたさを再認識した

2013年8月3日 第2講座 2日目

- 自炊、牧場見学、
- ・牧場にて働く人の大変さを知ることで普段の生活がたくさんの人に支えられていることを再認識した
  - ・普段食している牛肉はどのような過程で育ち、そこで働く人がどんな思いで世話をしているかを知ることで命をいただいていることを再認識した

2013年8月4日 第2講座 3日目

- 食肉加工場見学、手造りソーセージ体験、DVD「いのちをいただく」鑑賞
- ・工場見学を行い牛肉が店に並ぶまでの工程の中で多くの人がたずさわっているこ

とを再認識した

(いのちをいただく＝食材を得るために「牛を殺す」という具体例を通して、食べる  
こと、生きること、人と動植物の命のつながりーについて考えさせられる物語)

2013年8月10日 第3講座 鹿児島市内研修施設

つながりを知る、家系図作成、竹灯籠(竹の器にろうそくを入れたもの)作成、竹  
灯籠点火、親子の手紙交換

・普段の生活の中にある様々なつながりを図示することで自分が生かされているこ  
とを再認識した

・様々なつながりの中で、つながれている命にクローズアップし、自身の家系図を書  
いた。自分が存在するためにどれだけの命がつながれてきているかを知り、命の尊さ  
を再認識した

・竹製の灯籠に先祖や家族への感謝の言葉を書き、お盆の迎え火になぞらえて火を灯  
した

・児童は感謝の手紙を、保護者は子供に対する思いの手紙をお互いに交換し合い心を  
通わせた

2013年8月25日 第4講座 鹿児島市内研修施設

東日本大震災被災者の講話、事業を通しての振り返り、学びの発表

・東日本大震災被災者の講話を聞くことで、つながりの大切さ、助け合いの大切さを  
再認識した

・振り返りを行い学んだことを発表することで、生かされていることへの感謝と他人  
に対する思いやり、助け合いの大切さを再認識した

## Recommendations 考察や推奨

目的のうちどの部分が達成されたのか？

達成できなかった部分は、何か？

それは、なぜか？その改善策は？

第1講座では、すべての児童が感謝することの大切さを理解したと回答しました。

第2講座では参加児童数の97%が助け合いや協力することの大切さがわかったと回  
答し、食べ物に対する意識が変わったと回答した児童が見受けられました。

第3講座では身近にあるつながりを図示することで全ての児童が新たな発見があっ  
たと回答しました。また、家系図作成により命がつながっていることを理解してもら  
えました。

第4講座ではすべての児童が助け合いの大切さがわかったと回答しました。

全講座を通して96%の児童が様々な物への感謝の気持ちが持てたと回答し、96%が  
感謝することが増えたと回答しました。

また、事業を終えて保護者の 89%が児童の前向きな成長・変化を感じたと回答しました。

しかしながら、他人を尊重する思いやりや共助の心を持つという部分は、頭では理解していても行動で示せない児童が多いと感じました。行動に移すまでには日常生活で少しずつ訓練していく必要があると考えます。青少年育成は短期間の事業ですべての目的を達成するのは難しいと感じましたが、当事業に参加していただいた児童が成長し大人になったとき、今回経験したことを次の世代へと伝えていくことで、心温かい人が溢れる魅力ある鹿児島が創りあげると確信します。

ページ 3

Objectives, Planning, Finance and Execution

目的、計画、財務、実施

What were the objectives of this program?

このプログラムの目的は？

事業テーマ 豊かなこころの醸成

#### 第 1 講座

- ・メンバーが講師となり子どもとその保護者を対象に、DVD（徳育プログラム）を使用して、感謝することの大切さを学んでもらう
- ・参加児童はすべてのものに命があり、感謝することを学ぶ

#### 第 2 講座

- ・子ども達は 2 泊 3 日のキャンプ生活を通して、日頃の便利な生活や、親のありがたさを再認識する
- ・彼らはキャンプで仲間と協力し合うことで、助け合いや共助の大切さを学ぶ

#### 第 3 講座

- ・子ども達と保護者は、身の回りにある人と人とのつながりを図示することで、多くの人の支えの中で生かされていることを学ぶ
  - ・子ども達と保護者は、家系図を書くことにより、先祖からつながる命の尊さを学ぶ
- 第4講座
- ・子ども達と保護者は、事業を振り返ることにより、他人への思いやりや共助の大切さを学ぶ

How does this program align to the JCI Plan of Action?

この事業は、どのように JCI の活動計画と合っていますか？

このプログラムは以下の点で JCI の活動計画に合致している。

「次世代の能動的に行動する市民を創出する事を目的としている」点が JCI の活動計画と合致している。

- ・他人との相互理解

同じ目的に向かって協力し、信頼関係を築く。

- ・思いやりをもった行動

生かされていることを再認識することで、他人を思いやるこころの醸成

Was the budget an effective guide for the financial management of the project?

予算は事業の財務管理の為の効果的なガイドになりましたか？

予算審議 6月

予算金額 1,539,000 円

決算審議 10月

決算金額 1,286,488 円 (補正予算)

参加人数を 48 人と設定していたが 32 人となり差異が発生した。

How does this project advance the JCI Mission and Vision?

どうやってこの事業は JCI のミッションとヴィジョンを推進しましたか？

「JCI MISSION」

・参加者とメンバーに我々の住み暮らす鹿児島が、より心温かい人が溢れる魅力あるまちを創り出すための POSITIVE CHANGE できる機会を提供した。

「JCI VISION」

- ・ JCI 鹿児島は、鹿児島に住み暮らす児童とその保護者とのネットワークを作った
- ・ JCI 鹿児島は、事業に賛同する行政、企業とのネットワークを強化した

※画像4つ必要

**Membership Participation 会員の参加率**

By number, how many members were involved in this program?

事業のスタッフは何人？

19人

By percentage, how many members of the Local Organization were involved in this program?

LOM メンバーの参加率は？

63%

Describe the main roles of the participating members in this program

このプログラムで参加しているメンバーの主要な役割を簡潔に記述してください

【全体総指揮】1名（JCI 鹿児島 青少年育成委員会の委員長）

事業全体を把握しての取りまとめ、委員会メンバーへの指示

【事業スキームの構築】19名（委員会メンバー全員）

1. 事業全体の企画・立案
2. プログラムの立ち上げと運営
3. 参加児童の募集・取りまとめ
4. 行政・関係各所の協力依頼

【事業推進のためのツール作製】19名（委員会メンバー全員）

1. 募集チラシに記載するコンテンツの作成
2. 募集チラシの配布、問い合わせへの対応
3. 現地調査

【参加学生への募集活動】19名（委員会メンバー全員）

参加児童を募るため、鹿児島市内の小中学校 81 校を訪問

【第 1 講座の運営】19名（委員会メンバー全員）

1. 会場の設営
2. 徳育プログラムの実施

【第 2 講座の運営】19名（委員会メンバー全員）



1. 会場の設営
2. キャンプに使用する備品の準備、管理
3. 安全衛生

【第3講座の運営】19名(委員会メンバー全員)

1. 会場の設営
2. 徳育プログラムの実施

【第4講座の運営】19名(委員会メンバー全員)

1. 会場の設営
2. 事業の振返りの講師

【参加児童と保護者へのアンケート調査】19名

第4講座終了後、参加児童と保護者へのアンケートの配布・回収

※画像4つ必要

ページ5

Skills Developed 習得された技術・能力

What skills were developed in this program?

どんな技術・能力が、このプログラムで習得されましたか？

- ・参加児童はすべてのものに命があり、感謝することを学んだ
- ・彼らはキャンプを通して、普段の生活がいかに恵まれているかを再認識し、感謝した
- ・彼らはキャンプで仲間と協力し合うことで、助け合いや共助の大切さを学んだ
- ・彼らは身の回りの『つながり』を図示することで活かされていることを学んだ
- ・彼らは家系図を書くことで先祖からつながった命が尊いものだを学んだ
- ・参加児童と保護者は、事業を振り返ることにより、他人への思いやりや共助の大切さを学んだ

Describe the actual community impact produced by this project

このプロジェクトによって発生される実際のコミュニティへの影響を記述してください

- ・参加児童と保護者の会話が增えた
- ・参加児童が積極的に家事の手伝いを行うようになった
- ・参加児童が「ありがとう」と感謝の言葉を口にすることが多くなった

※画像4つ必要

What was the intended impact on the participants?

参加者への意図された影響は、何でしたか？

JCI 鹿児島は参加児童が以下の人材に成長する影響を意図した。

参加児童が 1-1 生かされていることを認識し、すべてのことに感謝できること。

1-2 目的を同じうする仲間と助け合い協力できること。

1-3 異なる価値観の人々と共に行動し、壁を乗り越えるスキルを持つこと。

Describe the actual impact on the participants.

参加者への実際の影響を記述してください。

JCI 鹿児島は参加児童が以下の人材に成長する影響を意図した。

参加児童が 1-1 生かされていることを認識し、すべてのことに感謝できた。

1-2 目的を同じうする仲間と助け合い協力できた。

1-3 異なる価値観の人々と共に行動し、壁を乗り越えるスキルを持った。

JC メンバーは事業を経験し、周りの人に支えられていることを改めて知った。

※画像 4 つ必要

## Long-term Impact of the Program プログラムの長期的な影響

What is the expected long-term impact of this project?

このプロジェクトの期待される長期の影響は、何ですか？

・我々の住み暮らす鹿児島県の次代を担う子ども達が、思いやりや共助の大切さを学びます。  
それを周りに伝えることで、こころ豊かな青少年が溢れ、鹿児島県が魅力あるまちになります。

What changes would you make to improve the results of this project?

このプロジェクトの結果を改善するために、どんな改善策がありますか？

他人を尊重する思いやりや共助の心を持つという部分は、頭では理解していても行動で示せない児童が多いと感じました。行動に移すまでには日常の生活で少しずつ訓練していく必要があると考えます。鹿児島県に住まう大人が地域をあげて青少年育成に取り組むことで、普段の生活の中で訓練できると考えます。

※画像4つ必要